

山梨県神社庁報

かみかね

秋祭日には国旗を掲げましょう



8月11日 山の日
9月16日 敬老の日
9月23日 秋分の日
10月14日 体育の日

令和元年夏号 (第186号)



悠紀の里 お田植祭奉仕 元宮住吉神社

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

神社本庁定例評議員会開催される

鷹司尚武統理、田中恆清総長再任

神社本庁 評議員 古 屋 真 弘

神社本庁定例評議員会が令和元年五月二十三日から二十五日の三日間、神社本庁大講堂で開催され、本県からは根津庁長、中田総代会長、古屋本庁評議員の三名が出席した。

二十三日の一日目には、鷹司統理の挨拶があり「今秋大嘗祭が斎行されるにあたり、神社界をあげて奉祝の誠を捧げるとともに、大御代の弥栄を祈念申し上げる」と述べられた。次に、小松神宮大宮司、服部神道政治連盟幹事長から来賓としての挨拶があった。

はじめに任期満了に伴い議長、副議長選挙の件が上程され、選考委員会での協議の結果、議長に中山高嶺評議員（埼玉県神社庁長、再任）、副議長に川村公彦評議員（高知県神社庁長、新任）春名明評議員（岡山後山神社役員、新任）が選任された。次に、田中総長が庁務方針の概略を説明。冒頭、今秋の「即位礼正殿の儀」「大嘗祭」等御即位に関わる諸儀式が滞りなく行われ、皇室の弥栄をご祈念申し上げるとともに、尊皇精神の昂揚に一層つとめて参りたいと決

意を述べた。続いて「本宗」について、神宮大麻・歴の頒布活動を取り巻く環境は大変厳しく減体傾向が続いているが、本宗奉賛活動強化推進委員会での検討内容や提言を生かし強力に増体に向けて努力を続けていくので、関係各位の一層の協力をお願いする。「包括団体業務」については、不活動宗教法人対策については積極的に取り組んでいく事、昨年の西日本豪雨をはじめ多くの自然災害に遭われた神社に対し、神社復興支援基金を活用して支援を行なっている事、本庁が所有する情報資産に対し、合理的且つ安定したセキュリティ対策と維持管理に努め、御代替に際してのサイバー攻撃に対する神社奉護について注意を喚起する通知を発した事、神社賠償保険の理解と普及に努め、加入の促進を図る事、「国民運動」については神道政治連盟と共に皇室の尊厳護持運動を強力に進めるとともに、御即位のご慶事を寿ぐ奉祝行事を展開していく事、皇室典範特例法に盛り込まれた「安定的な皇位継承を確保するための諸課

題」と「女性宮家の創設等」検討するとの問題について、歴史的な男系継承が維持されてきた重みを踏まえ皇室の将来が安泰に向けるよう運動を行なっていく事、「教化」については、家庭祭祀の振興を図るとともに、過疎地神社対策として「過疎地域神社活性化推進員会」の設置に伴い指定地域を定め神社、地域の活性化に取組む事、今年は靖國神社創立百五十年に当たる事から参拝奨励等、英霊顕彰を推し進める事、「広報」については「神社本庁公式サイト」「神社本庁神職専用サイト」の利便性向上に努め、マスコミを始め情報発信を継続する事、訪日外国人に対応するべく外国人向け資料の頒布を進める事、「祭祀」については、例年通りの本庁幣供進、臨時御奉幣に関する事務を執り進める事、指導者養成、後進の育成に務める事、「教学」については多様化した学術的諸問題に対応して行く事、「神社本庁総合研修所紀要」の刊行を行う事、「任用」については公正かつ適切な任用を行うとともに、時代の変化に即応した人材の育成と、資質の向上を図る等々が庁務方針として話された。

続いて「令和元年度一般会計歳入歳出予算案」「一般会計資金年度内一時繰替の件」が上程され、総額四十八億九千六百三十四万円となり、総長より削減すべきところは削減し、新役員の判断と意向により充実した施策が実施されるよう配慮したいと発言があった。また合わせて「平成三十年度御代替関係特別会計歳入歳出補正予算案」「令和元年度御代替関係特別会計歳入歳出予算案」が上程され、総額は一億五千五百二十万円、前年度に比して七千九百九十七万円の増額となった。以上の四議案は慎重に審議をはかるため、予算審議特別委員会に附託された。

二日目は、予算審議特別委員会委員長から審議結果報告ののち、採決が行われ四議案とも原案通り可決された。また、議案審査特別委員会委員長から提出された議案四件が上程され、提案者からの説明のあと、原案通り可決された。

三日目には、まず統理選挙が上程され、満場一致で鷹司統理の再任が決定された。次に、理事、監事の選考委員会が行われ、選考委員会が開催された後、本県の根津庁長をはじめ十七名の理事、三名の監事が決定された。閉会にあたり、田中総長からは「さらなる斯界発展のためにも尽くしていかなければならない」と述べられた。

全国神社総代会定例代議員会報告

山梨県神社総代会 会長 中 田 欽 哉

全国神社総代会定例代議員会が五月二十一日午後一時神社本庁二階大講堂で開催され、根津庁長、私（総代会長）、堀内副会長の三名が出席いたしました。全国代議員百七名出席。

修祓神殿拝礼し、昨年の代議員会以降帰幽した北白川名誉会長を始めとする物故者に対して黙祷、その後会長挨拶（代読）と神社本庁統理挨拶（代読）があった。

会長挨拶では神社界に於いても過疎化の進行、又日本人の伝統的価値観や地域共同体意識の欠落に伴う心の荒廃が指摘されている事を説明し、その上で我々神社総代会は神社の護持発展に尽すと共に、遠い祖先より営々と培われ、受け継いできた文化や価値観を次世代へと継承して行くため、その務めを果たしてまいる所存と述べた。続いて議事に入る。

平成三十年度会務報告

平成二十九年度歳入歳出決算について、本庁財政部長から説明、監査報告後、採決、全員一致承認。続いて令和元年事業計画（案）並びに令和元年歳入歳出予算（案）上程、審議し、いづれも原案通り承認される。（意見なし）

我々神社総代会は、御代替という国家的重儀にあたり、尚一層皇室敬慕の念の涵養に取り組みとともに、神社の興隆と神道精神の発揚を期し、神社本庁などの関係団体とも手を携えて実践目標を掲げて諸活動を展開する。

一、御代替の関連諸儀式が斎行されるにあたり、国民挙って奉祝の誠を捧げる

二、次代を担う青少年の健全育成のためには、家庭、学校、地域が緊密に連携して取り組みこと。

三、国旗、国歌及び祝日の意義啓発に努めること。

予算について、

歳入四一五一万円

歳出四一五一万円

歳出の主な内訳

教化費一八〇〇万円で四三、三%を占める。

大会費七二〇万円で一七、三%

次に役員改選については、午前中の役員会で諒承された案が示され承認される。三村会長留任。

九月四日に石川県金沢市で全国第五十五回神社総代会が開催される等諸議案を承認し終了した。

神宮参与同評議員会並びに崇敬会代議員会報告

神宮評議員 森 越 義 建

平成三十年度、神宮参与同評議員会・伊勢神宮崇敬会代議員会が、去る六月六・七日の両日三重県伊勢市の神宮会館大講堂で開催され、全国から約五百五十人余が出席した。ちなみに本県は根津神社庁長以下十二名で参加となった。

一日目の六月六日は、山梨を早朝貸切バスで出発し、名古屋市内で昼食を取り、午後二時半過頃伊勢に到着、一同外宮、内宮の御垣内参拝を済ませた。

その後、神宮会館大講堂へ移動し、神宮大宮司主催の懇親会が催され出席した。終了後一同宿に向かい、同泊の群馬・山梨合同の宴が催され両県の親睦を深めあった。

二日目の六月七日早朝より参加者一同が外宮・内宮に参拝後御神楽奉納を終え、神宮会館大講堂に参集した。

午前十一時三十分頃より、会議が始まり、小松揮世久大宮司、松下伊勢神宮崇敬会会長（代理、高城治延理事長）がそれぞれ挨拶した。この中で、小松大宮司は天皇陛下御即位に祝意を表した後、平成の御代に対する感謝と新しい令和の御代を寿ぐ参拝が多く見受けられた。今秋にては即位礼、大嘗祭を始め種々の

重儀が控えていることに触れ挨拶を述べられた。又高城理事長は設立六十五周年の記念事業「如雪園」復興事業を実施し、相撲場周辺に桜を中心に植樹をおこなったことをはじめ、種々事業を展開したことを説明、さらなる事業の充実、崇敬会会員の拡充を図り組織強化を実施してまいりたいと挨拶を述べられた。続いて功労者表彰がおこなわれ、平成二十一年から三度に亘り、神宮参拝者用の電動車椅子を献納した、三重県津市、国際ソロプチミスト三重の辻真由実会長に感謝状記念品を贈呈。辻会長が謝辞を述べられた。

その後、来賓を代表して鷹司尚武統理と鈴木健一伊勢市長（代理浦井出情報戦力局長）がそれぞれ祝辞を述べられた。議事は全国神社総代会理事の滋賀県神社総代会山内健次会長が議長を務めて進められた。

はじめに亀田幸弘神宮少宮司が神宮の現況概要を説明され、神宮司庁の五部所の担当各部長より、神宮の現況を資料により詳細に説明がされ、続いて伊勢神宮崇敬会藤本太事務局長より事業報告、次年事業案が提示され、説明方協力願いの言葉があり閉会となった。

神社本庁規程表彰を受けて

中尾神社

宮司 田 村 弘 正

畏くも皇室におかれましては、先帝陛下の御譲位により令和という元号のもと、新天皇陛下が即位なされた大きな節目にあたるこの度、明治記念館に於いて、神社本庁規程表彰を受けた事は、私にとりましてこの上ない喜びであり、大変恐縮いたしておるところであります。開式の前に、受彰者全員の記念撮影があり、足の悪い私に飯田参事さんが立ち位置を配慮して頂き、誠に有難うございました。開式の辞に続いて、神宮遙拝、君が代斉唱、そして神社本庁総裁池田厚子様のご来臨を賜り、尊いお言葉を戴きました。功績表彰に入り、規程にしたがい順次表彰されました。本県より四名の方々が受彰いたしました。その後、神宮大宮司様、全国総代会会長様より大変丁寧な労いのご祝辞を頂きました。被表彰者を代表して、鳩杖贈呈を受けた神田神社の大鳥居宮司が謝辞を申し上げ、最後に聖寿の万歳で盛大なる神社本庁表彰

式が終了いたしました。

私のこの度の受彰を振り返り思いますに、神職としての職責、実績ともに浅いですが、根津庁長はじめ多くの皆様方、また東八代支部の皆様方の温かいご配慮の賜物と厚く感謝申し上げます。私の生涯の宝物と大切にしたいと思えます。そして、私たち受彰者の為に、山梨県神社庁の多数の皆様方には、東郷神社参拝後、東郷会館に於いて、盛大な祝賀会を開催して頂き、楽しく良き思い出深い一日となりました。折しも東郷神社会館での会食でしたので、私事になりますが、御祭神である東郷元帥閣下と田村の軍人達も多少のクラブもあつたのではないかと思います。ながらお料理を頂きました。また娘（中尾神社禰宜）も参加させて頂き、大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。最後にりましたが、老体ではあります、尚一層の精進を重ねて、神明奉仕に勤めて参る所存であります。改めて皆様へ厚くお礼を申し上げ、規程表彰受彰のご報告といたします。

南都留支部総代会長
北口本宮富士浅間神社
氏子総代 神 樂 利 行

去る五月二十二日、神社本庁表彰式が東京港区の明治記念会館において開催されました。北口本宮富士浅間神社から総代四名の随行をして頂きました。

午後一時より記念撮影の後、定刻午後一時三十分の開式、開会儀礼に続き、池田厚子神社本庁総裁のご臨席のもと「日々の御奉仕に益々精励されますよう念願します。」と式辞が述べられました。引き続き、田中恆清総長より表彰における審査報告がなされ、鷹司統理から東京都の神田神社大鳥居信史宮司に鳩杖、功績状が、又各号代表者に功績状、表彰状が授与されました。

山梨県からは、第三条第二号表彰を中尾神社田村弘正宮司、神明神社竹俣忠洲宮司、第三条第四号表彰を山梨県神社庁参事飯田直樹氏、第三条第三号表彰を不肖、私、神樂が拝受いたしました。

式典では小松揮世久神宮大宮司と全国総代会長代理、荒巻楨一副会長から祝辞があり、被表彰者を代表して大鳥居宮司が謝

辞を述べられました。次に聖寿万歳を行い、閉式されました。

閉式後、午後三時より場所を移し、渋谷区にあります「東郷記念館」において、山梨県の被表彰者四名の為に祝賀会を開催して頂きました。

山梨県からは祝賀会場に根津神社庁長、小佐野副庁長、佐々木副庁長、北口本宮富士浅間神社上文司宮司、同神社総代代表者の方々を始め、神社庁役員の皆様により、会を催して下さいました。

根津庁長から心温まるご祝辞を賜り、且つ表彰式で下賜された、神職バッジ、総代バッジをそれぞれ被表彰者の襟に直々に付けて頂き、出席者から祝福の拍手を受け感慨無量の思いでした。

此度の表彰は、身に余る光栄であります。平素、一重にご指導を賜っています関係各位の陰と心より感謝申し上げます。今後、これを糧に神明奉仕、斯界発展に微力ながら尽して行く所存です。又、受彰者一同山梨県神社庁増々の発展を期待いたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和元年度神道政治連盟中央委員会報告

神道政治連盟山梨県本部 幹事長 乙 黒 洋

去る六月十二日午前十時より、神社本庁大講堂に於いて令和の御代を迎えて初めての、神道政治連盟中央委員会が開催され、当県本部からは渡邊平一郎本部長、小尾武副本部長と私の三名で出席した。神殿拝礼の後、打田文博会長の挨拶、続いて来賓として、田中恆清神社本庁総長、自由民主党総務会長の加藤勝信衆議院議員、自民党筆頭副幹事長で神政連国会議員懇談会事務局長の稲田朋美衆議院議員、神政連国会議員懇談会副幹事長の山谷えり子参議院議員より挨拶があった。

議事では平成三十年度事業報告、平成二十九年年度一般会計歳入歳出決算書、同特別会計収支計算書、令和元年度活動方針・事業計画、令和元年度一般会計歳入歳出予算案、役員改選及び常任委員選出がそれぞれ上程、審議された。活動方針では、天皇陛下御即位奉祝の気運を、尚一層盛り上げるべく奉祝事業の展開、国会での憲法論議の活性化と、改憲気運のさらなる醸成、今夏の参議院選挙への取り組み強化などが示され、また本連盟結成五十周年の節目を迎えるにあたり、神政連国会議員懇談会との連携強化に務め、歴史と伝統

に基づいた真の国家再興を目指すことが掲げられた。また事業計画案は、皇室尊厳護持活動、自主憲法制定運動など、活動方針案に基づく十一項目が挙げられ、何れも満場一致で承認された。任期満了に伴う役員改選については、各地区選出により組織された選考委員による選考のち、打田会長、加藤治樹・石川正人各副会長、服部憲明幹事長、藤原隆磨総務会長の四役の留任が決定、更に綱紀委員、監査委員、副幹事長、総務の新常任委員も各地区からの推薦などにより決定され、当県渡邊本部長も再度総務として、役員的重要を担うこととなった。議事の合間には参議院自民党政策審議会会長で、神政連国会議員懇談会副幹事長である、有村治子参議院議員も駆け付けて、今夏の参議院選挙出馬への決意を述べ、旧に倍しての支援をお願いしたい旨の挨拶があった。

尚、前日の十一日には、ホテルニューオータニに於いて、神政連国会議員懇談会の総会並びに神政連都道府県本部との合同懇親会が開催され、本県所縁の赤池誠章参議院議員、宮川典子・堀内詔子・中谷真一各衆議院議員も、それぞれ公務の合間

に会場するなど多くの同懇談会所属の国会議員と各都道府県本部の関係者が出席、懇親会には同懇談会会長の安倍晋三内閣総

理大臣も、公務多忙の中、駆け付けて挨拶を述べるなど、賑やか且つ和やかな雰囲気の中、懇親を深める場となった。

関東一都七県神政連協議会

「時局研修会」参加報告

神政連山梨県本部 常任委員 萱 沼 孝 之

去る、五月二十七日に自由民主党本部大ホールにて、関東一都七県神政連協議会の『時局研修会』が開催され、本県は二十七名の参加となった。

新帝陛下が踐祚遊ばされ、令和初めての国賓としてアメリカ合衆国トランプ大統領の訪日に伴う交通規制による渋滞を懸念したが無事到着した。

定刻午後二時、開会の辞に始まり神宮遙拝、国歌斉唱、宣言綱領唱和、主管の千葉県常盤本部長の代表挨拶、打田文博会長の来賓挨拶、来賓紹介と続き弁士による応援演説が行われた。弁士は、評論家金美鈴氏、丸川珠代、山谷えり子各参議院議員が登壇された。特に金氏は日本人にはユーモアまた断固とした主張がない。さらには言挙げすべきであると述べられた。

研修会では有村治子先生の国政報告があった。初当選以来、神政連と共にあり、また神道の精神を国政に日本の心を政策へ

としっかりとした国家観を持ち続けていると、ひしひしと伝わってくる活動報告だった。

また、応援セレモニーでは有村先生に櫓が掛けられ、本県の渡邊平一郎本部長が目録、花束を渡し、参加者全員で「ふるさと」を合唱し、『がんばろう』コールを行い、閉会の辞を終えて閉会となった。

言うまでも無く、中央本部は有村治子氏を推薦、また、山梨県本部は同じく、赤池誠章氏も推薦し、山梨県選挙区では森屋宏氏を推薦している。憲法改正への国民投票に持ち込むには衆・参両議院で三分の二以上賛成であるが、参議院は不透明だと聞く。更には、衆・参同日選挙も取りざたされている。

今夏の参議院議員選挙では、三氏全員を国会に送りだすことが急務であり、自民党の圧倒的多数で勝利し、憲法改正実現に向けて、一層の取り組みと展開を行わなければならない。

神社庁外郭団体新役員紹介

平成三十一年四月一日
令和四年三月三十一日

山梨県神道青年会

会長 菅本 孝志
副会長 甲斐奈神社 高野 元啓
副会長 若宮八幡神社 金子 雄紀
副会長 住吉神社 藤巻 普紀
監事 稲積神社 渡辺 僚
監事 菅本孝志閣下 高阪 雄次
教化部長 菅本孝志閣下 丹沢 稜
広報部長 武田神社 岡田美佐子
事業部長 菅本孝志閣下 小佐野正崇
事務局長 山 神 社 濱 武尊
指名理事 菅本孝志閣下 小佐野正崇
指名理事 八幡神社 深澤 宜彦
指名理事 武田神社 中村 讓

山梨県女子神職会

会長 稲積神社 土肥 東宮
副会長 御崎神社 上條 節子
會計 八王子神社 福住 春子
事務局長 船形神社 平嶋 恵
監事 朝気熊野神社 渡邊 ちさ
監事 中尾神社 田村かおる

山梨県教育関係神職協議会

会長 古宮太神社 高野 英夫
副会長 神明社 竹俣 忠洲
事務局長 菅本孝志閣下 小佐野文男

山梨県氏子青年協議会

監事 浅間諏訪神社 郷田 盛直
監事 菅田天神社 今沢寛万呂
相談役 王法子神社 興石 仁

山梨県神職保護司会

会長 菅本孝志閣下 小林 寛
副会長 稲積神社 大澤 慶暢
会長 稲積神社 根津 泰昇
副会長 武田神社 佐々木高仁
副会長 小室浅間神社 宮下 重範
理事 宇波刀神社 石原 鎮
理事 菅本孝志閣下 金子 寿元

山梨県神道雅楽会

会長 穴切大神社 秋山 忠也
副会長 金山神社 金子 寿元
理事 武田神社 内藤 寛
理事 牛倉神社 中村 宗彦
理事 稲積神社 篠原 康正

山梨県敬神婦人連合会

会長 浅間神社 古屋真紀子
副会長 稲積神社 丹澤起恵子
副会長 八王子神社 中村 政代
副会長 武田神社 山本 育子

総代広場 第一回

本号より、総代の皆様の意見交換や交流の場として「総代広場」と銘打ち記事を掲載する事となりました。第一回目となります。今回は「総代の使命と任務」と題しまして、山梨県神社庁設立六十周年、山梨県神社総代会設立五十周年記念「氏子総代祭典世話人のための祭典奉仕のしおり」より抜粋させていただきます。次号は総代の皆様より寄稿いただいた記事を掲載させていただきます。ご協力の程よろしくお願い致します。

総代の使命と任務

悠久の昔、四季折々の変化に富む自然風土の中に神々のご存在を見いだした日本人は、家郷の村々に神々を祀り、今日に至るまで連綿と祭りを続けてきました。こうして祀られた神社は、それぞれの地域で氏神さま（鎮守さま）として親しまれてきました。

古より絶えることなく続けられてきた神社の祭祀は、豊作を祈る春祭り、収穫を感謝する秋祭りなど、稲作に関わるものが多く、氏子区域を挙げて行われ

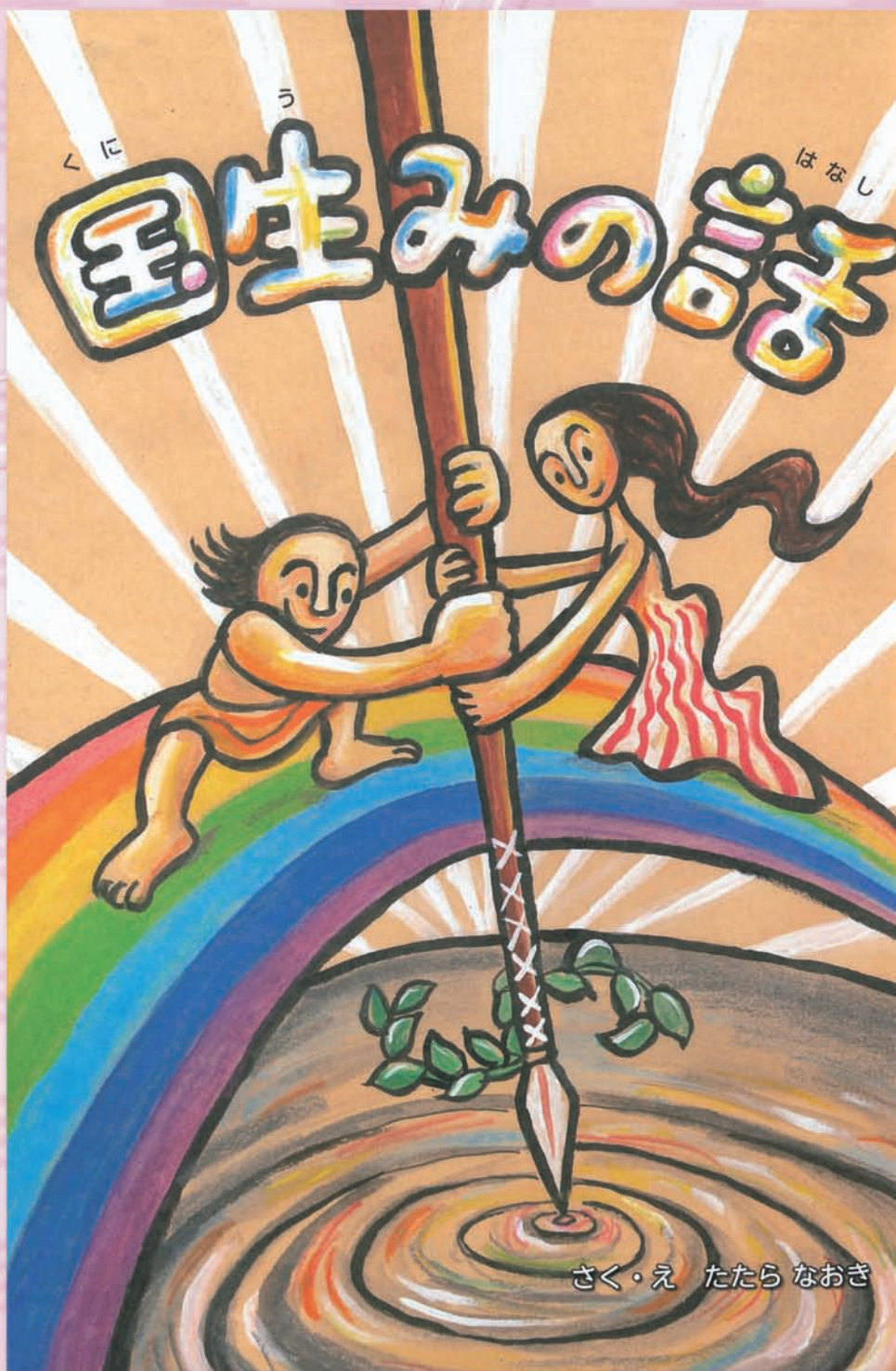
ます。このことは、氏神さまへの崇敬心及び氏子という連帯意識を基礎とした神社と地域社会との密接不離な関係を物語っています。

さらに古来、皇祖皇宗の遺訓、偉業を継承せられ、祭祀を行わせられる天皇陛下を仰ぎ、君臣一体となって国づくりを進めてきた我が国において、皇室、国家と神社との関係も極めて密接です。

皇室、国家及び地域社会と神社の結びつきは非常に強く、神社の祭祀は特定の教義、教典を信仰上の規範としたり、ただ個人救済にのみ眼を向けるものではなく、常に国家社会と一体となつて平穏な世を目指してゆくものです。

総代は、こうした神社にあって古く法律以前の存在であり、宗教上・信仰上の機関として地域社会・氏子崇敬者の代表として、よく宮司に協力して、祭祀の厳修と神社の護持振興に努めるとともに、連綿と受け継がれてきた神社の祭祀・信仰・伝統と地域社会のコミュニケーションの中心としての神社を次代に伝えていくことを使命とするのであります。

絵本 日本の神話
国生みの話（第三話）



「公益財団法人 日本文化興隆財団」提供
問い合わせ 東京都渋谷区千駄ヶ谷四一五―十
電話 〇三―五七七五―一一四五
一冊 二〇〇円

お子さん、お孫さんと、
神話の世界をお楽しみ下さい。







「こりゃ うまそうだ。」
むしゃむしゃ 食べてる
そのすきに
いざなぎは
むちゅうで にげました。
あつというまに
食べた 魔女たちが
また おいけてきます。
「やくそくやぶった
いざなぎよ
つかまえちゃうぞ
食べちゃうぞ。」

こんどは
くしを ぽきぽき おって
えいつと なげると
また ふしぎ。
くしは むくむく 大きくなり
たけのこが
はえてきました。

「こりゃ また
うまそうだ。」
むしゃむしゃ 食べてる
そのすきに
いざなぎは
また 走りました。

祭式及び衣紋研修会報告

女子神職会 飯 田 浩 美

去る六月十九日山梨県神社庁の神殿において、山梨県女子神職会による祭式及び衣紋研修会が開催されました。今回の研修会は衣紋をご指導頂き、着装のまま祭式研修をするという内容でした。講師には、本県神社祭式講師である桃井一祝先生をお迎えし、十名の女子神職が受講いたしました。

開講式において修祓、大祓詞奏上、神殿拝礼を行い御神前に開講を奉告いたしました。

実践が始まり、まずは祭式の基本作法を復習し、姿勢や扇法における扇を持つ手の角度や位置、腹部のどの辺りに両手を置くのか、また扇を上下する際の速度にいたるまで詳細にご指導頂きました。立つ、歩く、止まるという一見すると最も簡単に思われる動作にこれ程までに苦勞し、日頃の所作の乱れを痛感いたしました。今一度、初心にかえり神様に失礼のないよう正しい作法で日々の神明奉仕をしてまいりたいと思います。

午後からは、いよいよ装束の着け方、衣紋について学びました。先ず、教材の映像を観ながら衣紋の本義である「前衣紋者」「後衣紋者」の二名で行う際の方、また「お方」に対しての礼

儀や立たれる方角、さらに装束を置く位置など初めて知る事柄も多くあり、大変勉強になりました。日頃、自分一人を着装していて知らず知らずのうちに細部が自己流になってしまっていた所もありましたので、改めて正しい手順で着装し美しい姿でお祭りをご奉仕するよう心掛けたいと思います。

続いて、実際に受講生が「衣紋者」と「お方」になり、正装また礼装のそれぞれの装束を着けてみました。小紐の結び方一つにしても、自分で着装して結ぶ場合と衣紋者としてお方にお着けし結ぶ場合では、方向や力の加減も異なり、これは実際に経験を重ねて身に付けていくしかないと思感いたしました。

着装後、引き続き祭式研修を行いました。慣れない私は、動作をしていくうちに釵子や懐中した帖紙が序々に不安定になり



ましたが、諸先輩方より色々とアドバイスを頂き、参考になりました。また、男性神職の装束につきましても身分や種類、帖み方など、まだまだ学ぶべき事柄が沢山ありました。

神職が装束を身に纏う時は、御神前で祭礼を執り行う時です。神に対して誠を捧げる心と形は一つになっていなければなりません。正しい形、美しい姿で神と祖先の恩恵に感謝しながら、研鑽を積み精進してまいります。

山梨県敬神婦人連合会活動報告

会長 古屋 真紀子

平成三十年六月六日神社庁に於いて役員会を開催し、総会及び全国敬神婦人大会神奈川大会参加旅行について協議しました。

七月十七日神社庁にて総会を開催、多くの出席者のもと平成二十九年度決算報告及び監査報告があり、平成三十年度予算案事業案が満場一致で可決されました。全国敬神婦人大会創立七十周年記念表彰者の神戸鶏子さん千野長子さん田ノ口博子さん三神八重子さん立川作子さん塩島はる子さんの六名の推薦と乙黒夏恵前会長の顧問就任を報告しました。関連事業で国旗小旗五〇〇本を作成して日本国旗協会へ送りました。

その後宮内庁掌典職出仕金子元紀氏の記念講演「宮中祭祀の概説」を拝聴しました。宮内庁組織や天皇陛下の宮中で行われるお祭りや賢所々宮中三殿、即位の礼、大嘗祭の儀式等について

の興味深い講演でした。

九月六日に第六十九回全国敬神婦人大会神奈川大会が横浜みなとみらいホールにて開催され、全国各地から一六〇〇人余りが参加しました。本県からは一泊二日の日程で三十八名が参加しました。パイプオルガン演奏の清興の後北白川慶子会長の式辞に始まり式次第修了後、北白川会長が辞意を表明され、次期会長に鷹司久美子様が就任されました。記念演奏はバイオリンニスト大谷康子さんの横浜開港にちなんだ数々の曲の演奏を楽しみました。二日目には伊勢山皇大神宮を正式参拝して復元中の本田も拝見しました。その後、鎌倉小町通りを散策して帰路につきました。

今年は九月十二日に広島県で敬神婦人大会が開催されます。九月十一、十二、十三日二泊三日での全国敬神婦人大会参加旅行を計画しています。厳島神社正式参拝や広島平和記念資料館の見学も予定しています。多くの方の参加をお待ちしています。

神青協一都七県協議会 総会報告

神道青年会
副会長 高 原 光 啓

本年六月、標記の大会が富士吉田市のホテル鐘山苑において開催された。同所は本協議会が発足した歴史的な場所であり、二十五回目となる本年の総会が、しかも、我が山梨神青同志にして地区理事たる小佐野正崇君が同協議会々長を務め、かつ同事務局長を当会監事の高阪雄次君が務めるなかで執り行われたことはまさに歴史の妙と言えよう。

当日は開会儀礼に続き、伊原弘之顧問の退任に伴う感謝状贈呈がなされた。続いて議事へ進行し、今回は筆者が議長を拝命した。上程された審議事項はすべて承認されたが、特筆すべきは、任期満了に伴い小佐野正崇君の一都七県協議会々長および高阪雄次君の同事務局長退任が承認されたことである。両名はこの二年間、社務会務に加えて一都七県協議会に出向し、諸活動を展開し、種々の業績を残されたことに心から敬意を表したい。とりわけ御代替りという節目に皇室御安泰祈願祭を立案し、皇城を鎮護する日枝神社に

おいて斎行したことは時宜になう素晴らしい事業であった。

総会後は、ふじさんミュージアム学芸員の篠原武先生をお迎えし、「富士信仰と御師」と題して講演を頂いた。富士山の成り立ちから始まり、富士信仰の展開と、それを担った御師の成立について画像を交えながら説明。とくに富士信仰が関東一円に広まるなか、富士講の盛り上がりとは富士塚の過去・現在に関する詳説は聴講者とともに一都七県の青年神職にとつて有益なご教示であったことと思う。

実は本講演の講師は獨協大学の城崎陽子先生に依頼していたが、総会に先立つ五月に急逝された、急遽篠原先生をお願いしたという経緯があった。城崎先生は富士行者としてのお立場からも、また万葉集研究者として新元号についてもご講演頂けると期待していただけに痛惜の極みである。ここに謹んでお悔やみを申し上げる次第である。同時に代役をご快諾頂いた篠原先生に心より感謝申し上げたい。

尚、本総会は私共青年会の創立七十周年記念事業の一環と位置付けている。今後、更なる事業を展開させて頂きたく、ご理解ご協力の程お願い申し上げる次第である。

全国神職保護司会創立三十周年 記念式典に参加して

事務局長 松 田 公 仁

神職保護司会は神社本庁傘下の団体として全国で約四百名余り在籍して活動している。

平成二年八月に明治神宮会館が発端となり、今回は「奉祝天皇陛下御即位」を冠する第三十回全国の記念式典で、令和元年六月六日東京都渋谷区の東郷神社境内の東郷記念館にて開催した。

また保護司とは法務大臣より委嘱を受けた非常勤国家公務員であり「社会奉仕の精神をもつて犯罪をした者の改善及び更生を助ける」とともに、犯罪防止のため世論の啓発に努め、もって地域社会の浄化をはかり、個人及び公共福祉に寄与することを、その使命とする」と保護司法第一条に記されている。これは敬神生活の綱領の「世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと」を改めて思い起こし、私は昨年五月に保護司を委嘱された新任で様々な勉強会があり、また地元と関わり合い多くの各会合に参加している。

当日は原宿駅で下車、十一時

二十分頃会場に到着、全国保護司会福田勉会長のご好意により東郷カレーを頂き東郷神社で正式参拝の後大会に望みました。総会では神社本庁総長を始め各来賓のご出席を頂き、事業報告・会計報告などを終え、来年は岡山市にて行われることを決議した。

また懇親会場は新国立競技場で有名な建築家隈研吾氏の設計によるル・アール東郷の披露宴会場で行われた。この会場の窓からの景色はまるで境内の杜に居る様な中で、クラシックの演奏から始まり、和の食材を使った洋食に舌鼓をうち、また各県よりお酒が予め届けられており、山梨県からは伊勢志摩サミットで提供された地酒ワインで、人気の為直ぐに無くなってしまった。

翌日は立川市の昭和天皇記念館で陛下の生涯を映像で分かりやすく拝観し、また雨の中で参拝し、同市のとうふ屋うかいにて昼食、東京駅にて解散した。終始東京都神職保護司会の方々が気遣い頂き、おもてなしの心遣いが有り難く感じた会であった。

山梨県神道雅楽会活動報告

小林 信子

山梨県神道雅楽会並びに穴切雅楽会は、昨年度、宝くじ「コミュニティ助成金事業」の指定を受け、舞楽「蘭陵王」装束一式、「人長舞」装束、直垂三領、地布、楽所幕を購入しました。

指定を受けるにあたり、中込豊秋前総代会長をはじめ、森屋宏参議院議員、白井成夫前県議他、各方面の方々にご協力頂きました。これを受け六月十八日、山梨県神社庁神殿において、舞楽装束購入奉告祭を斎行し、来賓及び関係者約二十名をお招きし、購入した装束を着用し舞楽を奉奏しました。神道雅楽会の指導者である宮内庁式部職楽部元首席楽長の上明彦先生をお迎えし、両会会員十八名が雅楽奉奏を致しました。

奉告祭は神道雅楽会会長秋山忠也が斎主を務め、祭員は同会藤巻普紀、相田卓也が担当し、恙無く執り行われました。

舞楽の演目は「鉾舞」「其駒」「蘭陵王」です。会員一同この日の為に稽古に励んで参りました。来賓、関係者を前に緊張しながらも精一杯の演奏をさせて頂きました。

披露の会で上先生より「背広で舞楽はできない。今、どこでも雅楽ができる準備が整っ

た」とのお言葉を頂き、「さあ、ここからスタートだ!」という実感が湧くとともに、なお一層の精進を心に誓いました。最後に、雅楽会を支えて下さっている方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。

雅楽奉奏

鉾舞	舞人	秋山 忠也
蘭陵王	舞人	益田 康志
人長舞	舞人	金子 寿元
笙	保坂由紀子	青柳 咲
箏	金丸 明子	
箏	時沢千寿子	篠原 康正
笛	田中 宏昌	中村 陽宏
	久保田健太郎	
	中川 武仁	小林 信子
和琴	岡田美佐子	
鞆鼓	時沢千寿子	
鉦鼓	上 明彦	
太鼓	関 宣隆	
解説	中村 宗彦	
記録	保坂 京子	
	内藤 寛	



祭典を斎行して

悠紀の里 お田植祭奉仕

元宮住吉神社

宮司 花 形 豊

明治天皇の大嘗祭(明治四年)では、甲斐国(山梨県)巨摩郡が悠紀の国、安房国(千葉県)長狭郡が主基の国に亀卜で占い定められた。

山梨県では、当時の県令土肥実匡は、百姓山田松之丈の所有地を悠紀の斎田と定め、同人に耕作させ新穀献上の重任を果たしたと伝えられている。

大正十一年記念碑を建碑。その碑の前で石田お俵連(会長矢野和彦)は、平成十一年から毎秋、甲府大好き祭りに加わりお俵連祭りの神事と山車の巡行を実施している。

この度、明治神宮から明治神宮鎮座百年に向け「悠紀の途切れた歴史を復活させて欲しい」との依頼があり、令和二年の奉納は、石田地区の田圃(農地耕作者花形満寛氏、土地所有者森本雅治氏)二千平方米を使い酒米を育てる。(今年はリハーサル)酒の醸造は、明治天皇が、

山梨巡幸の際に宿泊された山梨銘醸北原家の北原対馬社長に担当してもらった事となっている。さつき晴れの五月十九日、代掻を終えた田は水を一杯湛え、竹の紙垂が風にゆれ美しかった。

根津庁長、飯田参事、明治神宮水谷欄宜他、主基の国千葉鴨川の人達、地元の有志が参列して、開会式、神事を行った。

遠藤三社諏訪神社宮司と私元宮住吉神社宮司の二人で奉仕。斎主は私が務め、祝詞奏上、斎田の清め祓い、お田植行事も順調に進み、早乙女のお母さん方の指導を受け、石田小の児童もオレンジ色の法被姿で手植えを行い、泥にまみれたが貴重な体験、一生の思い出になったことと思う。幅広い世代に歴史を伝えるよい機会になった。準備に御苦労下さった方々に感謝致します。



山梨県氏子青年協議会活動報告

会長 小林 寛

山梨県氏子青年協議会（以下「県氏青協」）は、「平成四十年に結成され、今年は結成二十七周年を迎えます。発会は、稲積神社崇敬青年会が中心となり、単体で活動してまいりましたが、後年、武田神社崇敬青年会、山梨縣護國神社崇敬青年会、新屋連神社氏子青年会の加入を経て組織拡大がなされ、平成十四年六月の北口本宮富士浅間神社氏子青年会の加入を以て、県氏青協は最盛期を迎えました。しかし、その後は各単位会も会員確保に相当な苦勞があり、脱会或いは休会ということで、現在は、稲積神社崇敬青年会と北口本宮富士浅間神社氏子青年会の二単位会にて活動しております。

これまでの主な活動は、各神社への祭典協力及び友情を深めるための親睦事業、神社庁諸行事への参加協力、最近では数年前まで活動休止だった「関東地区連絡協議会」を管内同志と共に復活させ、諸々模索しながら氏青活動を展開しております。今後とも、山梨県氏子青年協議会を、よろしく願っています。

祭典日程

7・28	富士河口湖町河口浅間神社太々御神楽祭（奉謝鎮祭） 甲斐市篠原八幡神社茅の輪祭	9・13	甲府市国玉町玉諸神社秋葉祭
7・31	富士河口湖町河口浅間神社身曾岐祭 甲府市善光寺柴宮神社みそぎ祭 甲斐市中下条松尾神社みそぎ祭長坂町大八田建國神社夏越祭	9・14	七保町瀬戸春日神社例大祭
8・1	甲府市千塚八幡神社みそぎ祭宵祭 甲斐市吉田市大明見小室浅間神社高座神社祭	9・15	甲府市宮前町八幡神社例大祭 富士市吉田市上暮地神明神社例大祭
8・4	忍野村忍草浅間神社忍野八海祭 山梨縣護國神社みたま祭（十五日） 賑岡町畑倉春日神社例大祭 富士山小御嶽神社例祭 昭和町西条義清神社義清公慰霊祭 南アルプス市鏡中条巨摩八幡宮三社合同祭	9・16	都留市田舎倉三嶋神社例大祭 富士市吉田市下吉田小室浅間神社例祭 流錫馬祭り（十九日） 富士河口湖町船津八王子神社例大祭（神幸ノ儀） 富士河口湖町船津筒口神社例大祭（神幸ノ儀）
8・8	忍野村忍草浅間神社忍野八海祭 山梨縣護國神社みたま祭（十五日） 賑岡町畑倉春日神社例大祭 富士山小御嶽神社例祭 昭和町西条義清神社義清公慰霊祭 南アルプス市鏡中条巨摩八幡宮三社合同祭	9・19	忍野村忍草浅間神社末社諏訪神社例祭（秋季大祭）（二十一日） 甲府市青沼浅間神社秋季大祭（二十二日）
8・13	山梨縣護國神社みたま祭（十五日） 賑岡町畑倉春日神社例大祭 富士山小御嶽神社例祭 昭和町西条義清神社義清公慰霊祭 南アルプス市鏡中条巨摩八幡宮三社合同祭	9・21	甲府市青沼浅間神社秋季大祭（二十二日）
8・15	賑岡町畑倉春日神社例大祭 富士山小御嶽神社例祭 昭和町西条義清神社義清公慰霊祭 南アルプス市鏡中条巨摩八幡宮三社合同祭	9・22	甲斐市篠原山縣神社例大祭・大式学問祭 甲斐市篠原山縣神社例大祭・大式学問祭 甲府市愛宕町愛宕神社秋季皇靈祭 一宮町橋立甲斐奈神社秋季例祭 白州町白須若宮八幡神社秋季例祭 富士吉田市大明見小室浅間神社護國神社招魂祭 戦没者慰霊祭
8・17	富士山小御嶽神社例祭 昭和町西条義清神社義清公慰霊祭 南アルプス市鏡中条巨摩八幡宮三社合同祭	9・23	甲斐市篠原山縣神社例大祭・大式学問祭 甲府市愛宕町愛宕神社秋季皇靈祭 一宮町橋立甲斐奈神社秋季例祭 白州町白須若宮八幡神社秋季例祭 富士吉田市大明見小室浅間神社護國神社招魂祭 戦没者慰霊祭
8・18	南アルプス市鏡中条巨摩八幡宮三社合同祭	9・25	山梨縣護國神社秋季例大祭 甲府市朝気熊野神社秋季例大祭（六日） 勝沼町勝沼窪宮神社秋季例大祭 甲斐市篠原八幡神社秋季例祭 高根町長沢船形神社秋季例祭 小淵沢町北野天神神社秋季例祭 山梨市八代町北熊野神社秋季例祭 三ヶ所諏訪神社秋季例大祭 大泉町谷戸逸見神社秋季祭 牧丘町西保中菅神社秋季例大祭 葦崎町岩下勝手神社秋季例祭 葦崎市穴山町諏訪神社秋季例祭 葦崎市穴山町穂貫神社秋季例大祭
8・20	石和町市部石和八幡宮撰社祭（二十日祭）	10・6	山梨市三ヶ所諏訪神社秋季例大祭 大泉町谷戸逸見神社秋季祭 牧丘町西保中菅神社秋季例大祭 葦崎町岩下勝手神社秋季例祭 葦崎市穴山町諏訪神社秋季例祭 葦崎市穴山町穂貫神社秋季例大祭
8・25	富士河口湖町浅川白山神社例大祭 北口本宮富士浅間神社鎮火祭 北口本宮富士浅間神社鎮火祭 生出神社例祭八朔祭 忍野村忍草浅間神社二百十日祭	10・8	山梨市三ヶ所諏訪神社秋季例大祭 大泉町谷戸逸見神社秋季祭 牧丘町西保中菅神社秋季例大祭 葦崎町岩下勝手神社秋季例祭 葦崎市穴山町諏訪神社秋季例祭 葦崎市穴山町穂貫神社秋季例大祭
8・26	北口本宮富士浅間神社鎮火祭 北口本宮富士浅間神社鎮火祭 生出神社例祭八朔祭 忍野村忍草浅間神社二百十日祭	10・9	山梨市三ヶ所諏訪神社秋季例大祭 大泉町谷戸逸見神社秋季祭 牧丘町西保中菅神社秋季例大祭 葦崎町岩下勝手神社秋季例祭 葦崎市穴山町諏訪神社秋季例祭 葦崎市穴山町穂貫神社秋季例大祭
8・27	北口本宮富士浅間神社鎮火祭 北口本宮富士浅間神社鎮火祭 生出神社例祭八朔祭 忍野村忍草浅間神社二百十日祭	10・10	山梨市三ヶ所諏訪神社秋季例大祭 大泉町谷戸逸見神社秋季祭 牧丘町西保中菅神社秋季例大祭 葦崎町岩下勝手神社秋季例祭 葦崎市穴山町諏訪神社秋季例祭 葦崎市穴山町穂貫神社秋季例大祭
8・28	富士河口湖町浅川白山神社例大祭 北口本宮富士浅間神社鎮火祭 北口本宮富士浅間神社鎮火祭 生出神社例祭八朔祭 忍野村忍草浅間神社二百十日祭	10・12	山梨市三ヶ所諏訪神社秋季例大祭 大泉町谷戸逸見神社秋季祭 牧丘町西保中菅神社秋季例大祭 葦崎町岩下勝手神社秋季例祭 葦崎市穴山町諏訪神社秋季例祭 葦崎市穴山町穂貫神社秋季例大祭
9・1	生出神社例祭八朔祭 忍野村忍草浅間神社二百十日祭	10・13	山梨市三ヶ所諏訪神社秋季例大祭 大泉町谷戸逸見神社秋季祭 牧丘町西保中菅神社秋季例大祭 葦崎町岩下勝手神社秋季例祭 葦崎市穴山町諏訪神社秋季例祭 葦崎市穴山町穂貫神社秋季例大祭
9・4	山中湖村山中諏訪神社例大祭（安産まつり）（六日）	10・14	山梨市三ヶ所諏訪神社秋季例大祭 大泉町谷戸逸見神社秋季祭 牧丘町西保中菅神社秋季例大祭 葦崎町岩下勝手神社秋季例祭 葦崎市穴山町諏訪神社秋季例祭 葦崎市穴山町穂貫神社秋季例大祭
9・7	富浜町鳥沢福地八幡神社例大祭 甲府市東光寺山八幡神社例祭 南アルプス市藤田八幡神社秋季例祭 猿橋町殿上三嶋神社例大祭 富士御室浅間神社秋季例大祭（神輿祭）	10・8	山梨市三ヶ所諏訪神社秋季例大祭 大泉町谷戸逸見神社秋季祭 牧丘町西保中菅神社秋季例大祭 葦崎町岩下勝手神社秋季例祭 葦崎市穴山町諏訪神社秋季例祭 葦崎市穴山町穂貫神社秋季例大祭
9・9	富士御室浅間神社秋季例大祭（神輿祭）	10・9	山梨市三ヶ所諏訪神社秋季例大祭 大泉町谷戸逸見神社秋季祭 牧丘町西保中菅神社秋季例大祭 葦崎町岩下勝手神社秋季例祭 葦崎市穴山町諏訪神社秋季例祭 葦崎市穴山町穂貫神社秋季例大祭
9・9	富士御室浅間神社秋季例大祭（神輿祭）	10・12	山梨市三ヶ所諏訪神社秋季例大祭 大泉町谷戸逸見神社秋季祭 牧丘町西保中菅神社秋季例大祭 葦崎町岩下勝手神社秋季例祭 葦崎市穴山町諏訪神社秋季例祭 葦崎市穴山町穂貫神社秋季例大祭
9・9	富士御室浅間神社秋季例大祭（神輿祭）	10・12	山梨市三ヶ所諏訪神社秋季例大祭 大泉町谷戸逸見神社秋季祭 牧丘町西保中菅神社秋季例大祭 葦崎町岩下勝手神社秋季例祭 葦崎市穴山町諏訪神社秋季例祭 葦崎市穴山町穂貫神社秋季例大祭

支部だより

東八代支部

支部長 植 松 真 芳

五月十九日、浅間神社参集殿に於いて令和元年度の東八代支部総会を開催しました。例年、総代会との合同総会として開かれ、根津泰昇神社庁長、中田欽哉県総代会長をお招きし、支部神職、支部内各社総代、約一〇〇名にての開催となりました。

定刻の午後二時に開会、神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領と進め、支部長・総代会長挨拶では三期九年に渡り当支部を纏めて戴きました志村重治様と堀内文藏様より会場の皆様を始め、数年間共に支部事業に尽力してきた皆様に対し、御礼を含めご挨拶を戴きました。来賓祝辞にて根津神社庁長、中田会長より神社庁新体制のご挨拶を含め、新元号、新年度を迎え、東八代支部が益々盛会であるようご祝辞を賜りました。ここで総

会の次第に予定されてはおりませんでした。新帝御即位、新元号奉祝に關し、浅間神社古屋宮司より、警備防犯について山梨県警察本部よりテロ警戒と配布のポスターについて説明がされました。次に功績者表彰七名、感謝状贈呈者四名の授与式を行い、以降は議事へ。事業報告、決算、監査報告、役員改選、志村前支部長より新役員の説明があり、ご承認を戴き、今期より支部長を仰せつかる旨と支部の皆様のご支援ご協力をお願いを併せご挨拶をさせて戴きました。事業計画、予算を諮り無事議事を納める事が出来ました。

本年度は神社庁挙げての新帝御即位、新元号奉祝行事を予定して居ります。支部内各社の総代長様には趣旨ご賛同の上、奉祝行事へのご参加、ご協力を戴きたい事と、先に述べたように各ご奉仕をされている氏神様の警備防犯を例年に増して強化して戴きたくご尽力をお願いする次第です。

歴代の支部長様、総代会長様が築き上げてきた事を引き継ぎ、更なる発展を目指し、総代

峡南支部

峡南支部総代会総会

並びに記念講演

支部長 山 本 純 司

元号が令和となり若葉の薫る五月十一日土曜日、南部町分庁舎総合会館講堂に於いて六十一名の出席により峡南支部総代会総会が開催されました。根津泰昇神社庁長、中田欽哉県神社総代会長、岡市仁志神社本庁総合

研究部研究祭務課長より祝辞をいただいた後、平成三十年度事業・決済報告、役員改選、令和元年度事業計画・予算案等審議され、原案通り決議されました。功刀総代会長の任期満了により新総代会長には熊王育雄氏（南部町内船八幡神社）、副会長には雨宮洋光氏（市川三郷町表門神社）、名執初男氏（富士川

会と連結しながら先ずは一年目の事業の一つ一つに務めて参りたいと思います。

町天神中條天満宮）、内藤秀雄氏（身延町熊野大神社）の新体制となり、不活動神社対策、国旗掲揚運動、神宮新穀感謝祭などへの活動方針も承認されました。

第二部として岡市研究祭務課長による「御代替りと斯界の対応」と題しての講演を行いました。即位の礼、大嘗祭の概要とその意義、御大典の奉祝についての神社界の基本姿勢や運動方針などのお話をいただきました。この講演を聞くことで、平成の御代の御事跡に尊崇の念を抱くとともに、令和の御代への諸儀式は皇室・国家を挙げた要諦であり、誇るべき日本の文化であると感じました。さらに、これからの御代に大いに祝意を表していくことの大切さを共有する機会となりました。

支部総会報告

峡南支部総代会総会

日時 五月十一日(土) 午後一時
場所 南部町南部分庁舎総合会館
東八代支部総会

日時 五月十九日(日) 午後二時
場所 浅間神社

峡中神社総代会並びに

山梨県神社庁峡中支部総会
日時 六月二十六日(水) 午前十時
場所 櫛形生涯学習センター
峡北支部総代会通常総会

日時 六月二十八日(金) 午後三時
場所 魚光会館

甲府支部神職総代会合同総会

日時 七月三日(月) 午後二時
場所 ベルクラシック甲府
各総会には根津庁長、中田総代会長が出席しました

今後開催予定の支部総会

北都留支部総代会総会
日時 七月二十五日(木) 午後二時三十分
場所 大月市民会館
東山梨支部総会

日時 八月二十三日(金)
場所 山梨市民会館
南都留神社関係者大会

日時 十一月二十三日(土)
場所 ハイランドリゾートホテル&スパ

今後の予定

○神宮大麻暦頒布始祭

令和元年神宮大麻暦頒布始祭
を左記に依り斎行致します。

記

一、日時

令和元年九月二十五日

(水曜・仏滅) 午後一時三十分

二、場所

山梨県神社庁 神殿

○山梨県神社庁顧問参与会

神職身分二級以上の神職で構成されており、ます神社庁顧問・参与会第二十七回例会を左記により開催致します。

記

一、日時

令和元年九月二十五日

(木曜・仏滅) 午後三時

二、場所

ホテル談露館

○山梨県神社関係者大会

令和元年度神社関係者大会を左記の日程、要項で開催致します。混迷する時局に鑑み神職総代相共に神社神道の昂揚に邁進し、以て地域の平安・活性化と国の隆昌に寄与致したいと存じます。何卒万障御差繰り御参会下さいますよう御案内申し上げます。

記

一、日時

令和元年十一月十八日

(月曜・先勝) 午後一時

二、場所

YCC県民文化ホール

(山梨県立県民文化ホール)

大ホール

二、内容

第一部 天皇陛下御即位奉祝祭
第二部 式典



不活動神社対策委員会報告

前山梨県神社総代会会長、現山梨県神社総代会顧問の中込豊秋様より、不活動神社対策に對しまして、多額の浄財をご寄付いただきましたのでご報告申し上げます。

おしらせ

山梨県神社庁長根津泰昇氏が神社本庁定例評議員会において、神社本庁理事に選任されたので御報告致します。

神道政治連盟山梨県本部 渡邊平一郎本部長が神道政治連盟中央委員会において神道政治連盟役員に選任されましたので御報告致します。

編集後記

編集委員会が新しくなり、「総代広場」、「編輯後記」と新たな記事が加わり、庁報かひがね第一八六号を皆様からのご協力をいただきました。ご協力・ご支援頂いた皆様に深く感謝いたします。今後ともよろしくお願いたします。